



# Let's enjoy reading books!



新入生のみなさん、学校生活には慣れましたか？ 2年生、3年生の皆さんも新しいクラスに慣れて来た頃だと思います。さて、五月号の図書館だよりは、今年度、常滑高校に来ていただいた福島隆之教頭先生へのインタビュー、そして新転任の先生からのおすすめ本第1弾を紹介しします。教育実習生のおすすめ本は次号第2弾にお送りします。お楽しみに。図書館だよりで紹介した本の中で、読んでみたい本があったらぜひ、図書館に来てください。その本以外にも素敵な本や、人との出会いがあるかもしれません。癒しの空間に使ってもらってもいいですよ。

## 福島教頭先生にインタビュー！

今回は、今年度からお世話になる福島教頭先生にお願いしました！



今年から常滑高校に赴任された福島教頭先生へのインタビューを行いました。まず初めに聞いたことは、好きな本についてです。教頭先生は、普段あまり本は読まないが好きな本を挙げるなら池井戸潤さんが書いた『下町ロケット』だとお

っしゃっていました。教頭先生は教職に就く前に十年以上、民間企業の経営者をしていて、家業としてものづくりもなさっていたそうです。リーマンショックの際に家業が厳しくなり、先生になったそうです。本に関すること以外の質問にも答えてくださいました。

おすすめの勉強方法について聞くと、「何よりも大切なことは勉強を楽しむ、好きになって、自分はできる！と思うようにすること」と答えてくれました。その思い込みが間違っていたとしてもそれはそれで大丈夫とおっしゃっていました。他におすすめしたいことをきくと

「好奇心を持ってまずやってみることが大事、自分も韓国語を習っ



て海外に行ってみたこともある」と、教頭先生自身の体験も交えながら話してくれました。

高校時代の部活は吹奏楽部に所属していてチューバを吹いていたそうです。もともとエレキトーンをしていて、楽譜が読めるから吹奏楽部に入ったら、「男子だからチューバを吹いて」と言われて始めたそうです。大学に進学した後はオーケストラに所属してビオラを弾いていたそうです。

休日の過ごし方については、キャンプ、ゴルフ、ランニングなどをしていて、冬にはスキーもするとおっしゃっていました。

インタビューをしている間、終始にこやかに話してくださり、時間いっぱいまで楽しくインタビューを行うことができました。「廊下ですれ違ったときや、話したくなかったときは気軽に話しかけてくれると嬉しい」とインタビューの最後に話してくださいました。

お忙しい中、ありがとうございました。



(インタビュー・記録：図書副委員長 2年2組 榊原慶記・高取ひなた  
文章：図書委員長 2年1組 高橋純祿)

## 新転任の先生おすすめの本

地歴公民科 和田 麦彦(むぎひこ)先生

『それでも日本人は「戦争」を選んだ』

加藤陽子著(朝日出版社)

東京大学教授が生徒と対話形式で講義を行う様子が描かれた本です。テーマは「なぜかつて日本は戦争を選んだか」。当時の人々が置かれた外交、経済、生活を示す史料やデータから、戦争を回避する対話の可能性はどこまであったのかを考える。少し読むのに体力がいりますが、これから海外と関わりたい人ほど読んでほしい一冊です。



理科 深川 剛先生

『コーヒーの科学』 旦部幸博著(講談社)

コーヒーにはまっていた時期がありまして、その時に読んでいた本です。著者の旦部さんは生物・医学の学者さんで、コーヒーに関する研究は趣味とのこと。それでもアマチュアと思えない内容で、コーヒーの樹の起源、コーヒーの焙煎・抽出の理論と方法、果てはコーヒーの健康に及ぼす影響への考察など、多岐にわたります。特にドリップコーヒーを抽出しているときにそこで何が起きているのかの考察など、他に聞いたことがない話で、大変興味深く読みました。



英語科 浅野 開星先生

『ドキュメント』 湊かなえ著(角川書店)

代表作「告白」をはじめ、数々の名作を生み出している湊かなえさん。そんな方の作品の一つである『ドキュメント』が自分のおすすめする本です。

高校放送部で全国大会出場に出るという目標。そして優勝を意気込む主人公の佳祐たちが運よくドローンを手にする。大会の題材にする対象が陸上部に決まり、取材を進めてゆくと陸上部にとって不祥事となりかねない出来事が…。

高校生である皆さんにとって同じ立場の登場人物が、物語で起こる事件について解明していく話で面白いので、ぜひ読んでみてください。



数学科 日置 侑希先生

『数学ガール』 結城浩 著(SBクリエイティブ)

私のおすすめの本は「数学ガール」という本です。この本はほかにも様々なシリーズがあります。今回は高校生にも読みやすいような1部を紹介しします。何よりもこの本は横書きなのが非常に読みやすいです!!この本は高校生の3人の中で様々な数学に関するお話を題材に話が展開されていきます。高校数学を題材にして数学は苦手だけど好きな「テトラちゃん」と「僕」の日常的な会話から数学のお話をしてくれるので非常に読みやすいです。読み物形式でありながら、扱う内容は本格的!数学が好きならより好きに、苦手な子でも数学的な考え方が言語化されているからこそ数学をやる人の考え方を学べるすごいい本です。ぜひ読んでみてください。



数学科 山口 喬士先生

『アントニオ猪木自伝』

アントニオ猪木 著(新潮文庫)

「元気ですか?元気があればなんでもできる」という名言を残した人気プロレスラーの自伝書です。若い人々には馴染みがないと思いますが、40代以上の人なら誰でも知っています。元気のない若い人に読んでもらいたい。

人間の強さとは。なぜ日本人なのにアントニオと呼ばれ、ブラジル人だと思われていたのか。信じられないような人生の自伝です。



体育科 南 敬 先生

読書は好きですが、人に勧める特定の本はとくにありません。私が読むのは、過去に存在した人が何をしていたか、あるいは過去にどんなことがあったのかについて書かれた本です。特に中国の歴史に関する本は好きです。中国史のほとんどは戦争の歴史です。作家がどちらの側に立って書いたかによって様相が全く異なります。

大人になったら自分なりの考えを持つことはとても大切なことですが、幅広い考え方を身につけるには、できるだけたくさんの体験をしたり、多くの人と関わりを持つことが必要です。

普段の生活の中だけで体験できることや出会える人は限られていますが、本を読むことで疑似体験をしたり、実際に存在した人たちの考え方に触れたりできます。そういう意味で、皆さんの人格形成に役立てるためにも、いろんな本を読むことを勧めます。



数学科 小谷純代先生

『流星の絆』 東野圭吾・著(講談社)

あまり読書をする習慣がなく、本を買ってまで読むという事があまりなかったのですが、昔、テレビドラマで観て内容はわかっていただけども、原作はどうなんだろうと気になって購入し、読みました。特に後半部分はどんどん引き込まれていき、展開も早くてすぐ読めてしまいます!

東野圭吾さんの作品にハマるきっかけになった本です。



体育科 松尾 修史先生

『夢をかなえるゾウ』 水野敬也 著(飛鳥新社)

この物語は、ダメダメサラリーマンのもとにゾウの姿をした神様「ガネーシャ」が突然現れるところから始まる。なんでも、ガネーシャは過去に発明家のエジソンや元アメリカ合衆国大統領のリンカーンなどを育てたと自称する、名コーチだという。そんなガネーシャが、サラリーマンに、だれでもできる課題を与えながら夢をかなえていく話。啓発本でありながら、会話中心に進んでいく話なので、楽しく読みながら、夢をかなえるための多くのことを学べる本です!



今回紹介していただいた本は、図書館に展示しています。紹介していただいた本をきっかけに、先生方とお話ができるといいですね。次に読むと良い本を紹介していただけると嬉しいです。リクエスト本や新着図書も展示しています。来館を待っています。(とこじい)

